

2016 年度

訪中団 感想文集

西安 6日間

日中經濟交流研究会

訪中団感想文集



Index

西安訪中団趣意書	1
2016年度 日中経済交流研究会 訪中団 スケジュール	2
税理士法人ガルベラ・パートナーズ 相原 進矢	3
赤木法律事務所 弁護士 赤木 真也	5
大山印刷(株) 大山 武久	6
三恵ハイプレシジョン(株) 落合 良寛	7
オーツケミカル(株) 合田 研吾	8
坂本造機 会長 坂本 進	10
税理士法人未来財務 田中 隆昭	11
(株)豊田製作所 豊田 浩二	12
株式会社ナガラ 三原 敏彰	13
株式会社電研社 野村 明宏	16
日本度器株式会社 藤田 眞弘	17
株式会社新高製作所 吉谷 忠久	19

2016年7月4日

西安日本人倶楽部 御中

2016年度 日中経済交流研究会 訪中団 趣意書

大阪府中小企業家同友会
日中経済交流研究会

<テーマ>

発展著しい内陸都市・西安の今を見に行く。

<訪中団派遣の目的>

- ・なぜ内陸部の西安に外資が進出しているのか?沿岸部との違いは?
- ・シルクロードの起点とは?古都長安で、中国の歴史を見る。

<参加者の関心のあること>

- ・日系企業がわざわざ、内陸の西安に会社を構えたのはなぜか?
- ・最近の中国は世界の工場から、世界の市場へと変わってきているが、西安はどうか?
- ・中国で作って、日本で売るというよりも、日本で作ったものを中国で売ることに興味がある人が多いが、日本製品の販売を仲介してくれる会社はあるか?
- ・一带一路構想はどんな影響を与えているのか?
- ・西安人(上海、北京との違い)の気質【商売面、対日感情、家族観】は?
- ・中国進出は政治的なことや賃金等、色々な面で検討する会社が少なくなっているが内陸部についても同様なのか?

<勝手な要望>

限られた時間で、西安のことをより広く知りたいと思っているので、さまざまな業種の方とお会いできることを計画しています。

理事会社様のお取引先や知り合いの方で、西安に進出している中小企業経営者の方がおられれば、ご紹介頂けないでしょうか。

特に土業(弁護士、税理士等)、サービス業(飲食関係)、日系商社、中小製造業の方を希望しています。

2016年度 日中経済交流研究会 訪中団 スケジュール 6日間

日付	時刻	便名	行動予定	ホテル	中国内 移動手段	備考
9月21日 水	11:50	Gカウンター	関空集合			朝食×
	13:50	CA928	関空発			
		北京乗り継ぎ				
	22:30	CA1205	西安着		専用バス	昼食×
			ホテル宿泊	ラマダホテル		夕食×
9月22日 木	全日		西安大金慶安圧縮機有限公司		専用バス	朝食○
			兄弟機械(西安)有限公司			昼食○
			日通国際物流(中国)有限公司 西安分公司			
			ホテル宿泊	ラマダホテル		夕食○
9月23日 金	午前		西安外国語大学 日本語学科		専用バス	朝食○
	午後		馬普軟件(西安)有限公司			昼食○
			ホテル宿泊	ラマダホテル		夕食○
9月24日 土	全日		市内視察		専用バス	朝食○
			兵馬俑、華清池、大雁塔など			昼食○
			ホテル宿泊	ラマダホテル		夕食○
9月25日 日	全日		市内視察		専用バス	朝食○
			シルクロード起点など			昼食○
			ホテル宿泊	ラマダホテル		夕食○
9月26日 月	5:30		ホテル発		専用バス	朝食○
	8:30	CA1206	西安発			
		北京乗り継ぎ				昼食×
	20:30	CA161	関空着 解散			夕食×

ダイキン工業	西安大金慶安圧縮機有限公司
ブラザー工業	兄弟機械(西安)有限公司
日通	日通国際物流(中国)有限公司 西安分公司
大学日本語学科	西安外国語大学 日本語学科
マップエンジニアリング	馬普軟件(西安)有限公司

日中経済交流研究会に初めての参加でいきなりの訪中（西安）

税理士法人ガルベラ・パートナーズ 相原進矢

私自身、中国（上海、北京、広州等）へは仕事・プライベートも含めると何回も行っていきますが、西安は初めてでした。西安と聞くと、古い時代の長安や秦の始皇帝をすぐにイメージするので、「おそらく相当な田舎で、何もなйдらう」と思っていました。

しかし、西安に行ってまず驚いた事は、日本人の数は上海や北京と比べると圧倒的に少ないですが、相当な都会で街が綺麗という事でした。いい意味でいきなり期待を裏切ってくれたので、西安視察は最初から最後までとても勉強になり楽しかったです。

今回の訪中団スケジュールは結構ハードだったと個人的に思っております。5泊6日と聞くと相当余裕がある様に思うかもしれませんが、行きと帰りで丸一日ずつを使うので、現地での視察・観光時間は実質4日間でした。

初日は真夜中にホテルへ到着したので、2日目から企業視察が始まります。ダイキン工業、ブラザー工業、日本通運、マップエンジニアリング、そして学生交流という事で西安外国語大学にも訪れました。

企業視察では、大企業は教育が徹底されている、社員の自主性が高い、仕事の仕組みづくりが徹底されている、という事にとっても感心しました。そして唯一の中小企業である「マップエンジニアリング」は、ソフトウェア開発の会社で京都と西安に拠点があるという、少し不思議な会社（何故西安に拠点が？）でした。当然西安進出のきっかけの質問がすぐにでて、京都市主催の誘致説明会がきっかけだったという事を総経理の安倍氏からお聞きし、ビジネスはどこでどうなるか、その人自身が持っている商売運もビジネスには大事という事を改めて感じました。

西安外国語大学では、日本文化学院副院長の葛叡先生より公式挨拶があり、その直後から学生達が我々訪中団にマンツーマンで大学の案内をしてくれました。学生寮、図書館等を案内してもらい、さらには食堂で昼御飯を一緒に食べるという、通常の旅行では絶対味わえない貴重な経験をさせていただき、現地大学生の学生生活を肌で感じ取ることができました。

たまたまですが、マンツーマンで案内をしてくれた学生は、ほぼ全員女子大学生だったのでおじさん達のテンションが上がったのは言うまでもありません。

4日目・5日目は観光でした。城壁、兵馬俑、林碑、大雁塔等の世界遺産を巡り、中国の歴史の奥深さを感じました。教科書等でしか見たことのない兵馬俑は圧巻でした。そして西安の城壁で驚いた事は、城壁がとてつもなく長いという事です。

城壁の石は万里の長城の石と同じで、デコボコしておりとても歩きにくかったのですが、せっかくなので行けるところまで行こうと、自転車をレンタルして回ってみました。結果は、残念ながらとても長い城壁ため、1時間以内に1周する事が不可能でした（バスの集合

時間という制約がありました)。

そんなこんなであっという間に 5 日間の過ぎ、帰国することに。帰りの飛行機で色々考えていた事があります。今回の訪中団の皆様は、非常に中国ビジネスの意識が高いという事で、自分も少しでも皆さんに追いつける様に精進しようという事でした。皆様のおかげで学びが深まり、自分の意識も高まったとても有意義な時間でした。本当にありがとうございました。

中国語を使って感じた西安

赤木法律事務所
弁護士 赤木真也

今回、訪中団へは初参加でした。西安自体は、現状、私の仕事とは直接の関係はありませんが、中国人クライアントの仕事も数多くあり、その中で、やはり自分の目と耳で、文化面、経済面その他、中国の現状を知っておきたい、また、積極的に現在習得中の中国語で現地の人とコミュニケーションを取りたい、という動機から、訪中団に参加しました。

現地では、訪問先の西安外国語大学で、日本語学習中の大学生だけでなく、夜行ったスナックの従業員、ホテルや商店、屋台の従業員、行き帰りのトランジットで利用した北京空港など、いろいろな場所で、中国語でコミュニケーションを取りました（いくつか誤訳もありましたが・・・）。

その中で見えてきたのは、西安地域で暮らす大学生はじめ、若い人々の苦悩でした。西安は、中国国内で3番目に大学数が多く、学生の街です。しかしながら、経済規模としては、西安の属する陝西省は中国国内では中堅上位に過ぎないこともあって、市内での就職はなかなか十分とはいえず、就職先としては沿岸部や海外へ、という傾向があるようです。一帯一路政策は、シルクロードの出発点である西安の活性化も期待されているようですが、現実に西安市内に好影響が出てくるのは、まだまだこれからのように感じました。

他方、現地の人々は、こちらが日本人であると分かっても基本的にウェルカムの姿勢で（特に若い人からは強い反日感情を感じることはなかった）、温厚であり（路上等で大声で会話等している場面はあまり見なかった）、向上心が強く（親が反対していても日本にインターンに行きたい学生、平日昼の仕事の賃金が安い分は休日や夜に仕事をしてカバーし、語学習得にも積極的な店員等々）、自分自身が、人として学ばなければならない面にも気づかされました。

今回の訪中通じ、個人的には西安に対して好印象を抱きました。また訪れてみたい場所の1つです。

この素晴らしい訪中を実現して下さった訪中委員の皆様、それから訪中団の皆様、この場を借りて、御礼申し上げます。

訪中団感想

2016 年日中経済交流研究会の訪問先は陝西省西安市。テーマは「発展著しい内陸都市・西安の今を見に行く」です。訪中前日に居相副団長（アベル株式会社）が仕事の都合で不参加になったり、訪問先企業から「工事ミスで当日停電になり対応できません」と連絡が入ったりと、アクシデントに見舞われましたが、参加者 17 名（途中合流 2 名）が 9 月 21 日に元気に大阪を出発しました。訪問先は西安に進出している日系企業、西安外国語大学と盛りだくさんです。

■内陸部に進出する日本企業の実態

西安は中国国土をニワトリに例えると羽の付け根にあたる部分。物流の拠点として高速道路網、ハブ空港、地下鉄工事と「一路一帯」政策の要で、急速に開発が進んでいました。しかし人口 870 万人の巨大都市でありながら、日本からの進出企業数はわずか 40 あまり。駐留邦人も 200 名（語学留学生を含む）ということ。中国の国土の大きさに圧倒されるとともに、進出企業が少ないが故の苦労を逆にエネルギーに変換している日本企業のたくましさを見ることができました。

■西安外国語大学でのおもてなし

2013 年の武漢以来、中国人の学生との交流は訪中団の目玉です。今回は西安外国語大学日本文化経済学部 4 年生です。学生たちは事前に私たちとペアを組んで交流をもつという、思いもよらないスタイルで迎えてくれました。それぞれのペアは、教室や、キャンパス内を自由に散策したり、学食で一緒にご飯を食べたりしながら将来のこと家族のことなど約 3 時間語り合いました。私の相棒は張君。昨年 12 月に草津温泉のホテルでインターンシップを経験したそうです。3 か月の滞在経験があるので、日本語は流暢でした。日本のアニメ文化にあこがれ日本に興味を持つ彼は、「日本語の通訳になりたい。そのためにもっと日本語を勉強したい。今日はいい経験ができました」と語ってくれました。それぞれのペアはわずかな時間ではありましたが、心を通い合わせることができたと思います。みんなは名残惜しい気持ちを持ちながら、メールやウェイシン（中国版 LINE）のアドレスの交換をして収穫多い時間を過ごしました。

■唐の都「長安」の城壁をサイクリング

最終日、シルクロードの出発地点のモニュメントと古都「長安」の城壁を視察しました。モニュメントを前にして、いったん入れれば出ることができないというタクラマカン砂漠を越えてシルクロードの交易にでかける隊商たちの命を懸けた覚悟が頭をよぎりました。城壁をサイクリングした時には、阿倍仲麻呂の「天の原 ふりさけみれば 春日なる 三笠の山に いでし月かも」という和歌を思いだし、1300 年以上前に学問、文化、仏教を学ぶために遣唐使として羅針盤もなく海を渡った日本の若者たちの覚悟を思い浮かべました。そして、西安で出会った学生たちも、夢や希望、覚悟を持って日中の架け橋となると確信を持ちました。

大山印刷(株) 大山武久

西安を訪問するのは、この旅で5回目となりました。最初の訪問は5年前、上海出張の合間、土日を利用して世界遺産兵馬桶の見学を主目的とした観光で最初で最後の西安旅行のはずでした。その後弊社で主力として切削している特殊合金の中国調達を調べていると、なんと西安で生産しているローカル企業がみつかります。早速訪問することになるのですが、仕様打合せ等々で、その後3度その企業を訪問することになります。特殊合金をなぜ西安で？その質問にたいして地場の大学との共同研究とか話されてたのが記憶の片隅に残っておりましたが、今回の訪中で西安が中国内第3位の大学の集積都市であることが分かり納得できました。

当研究会では訪中先を概ね1年前から話し合い西安となりましたが、理由は中国内陸部への企業視察です。それも日系中小企業。西安に存在するのか。そこはさすが当研究会の訪中委員の方々、ネットや大阪府上海事務所などのチャンネルを駆使して西安の日本人会までたどり着き訪問先を選定してゆきます。西安に進出している日系企業は約40社程度。数少ない企業様の中から、ブラザー工業様、ダイキン工業様他我々と同規模の京都に本社を構えられている機械を駆動するためのソフト設計を主体に営業されているエンジニアリング会社が快くお受けいただけ訪問することが叶いました。各社を訪問させていただき特に印象強かったのは、社員の定着の良さでした。過去沿海部の数多くの日系会社を訪問させていただきましたが、従業員は集まるがすぐ辞めると聞かされ続けていましたから、企業の絶対数が少ないからなのでしょうか、過去の先入観を裏切ってくれる側面も拝聴できました。そして当研究会恒例となりました、日本語を学んでいる学生との交流もでき学食も体験でき十二分に満足できた西安旅行となりました。

日中経済交流研究会 2016年訪中団、西安訪問の感想

私は、今回、初めて日中経済交流研究会の訪中団に参加しました。西安での訪問先は、①西安大金床安圧縮機有限公司、②兄弟機機(西安)有限公司、③日通国際物流(西安)有限公司、④西安外国語大学、⑤馬普軟件(西安)有限公司、⑥観光(掛軸・宝石の購入斡旋付)、⑦夜の街の飲み屋、でした。⑥と⑦を訪問先に入れるかどうかという問題はありますが、感想文ですので、実際に見たもの(視察)の説明は極力省き、①～⑥までのそれぞれについて感じたことを以下に書きます。

① 西安大金床安圧縮機有限公司

先ず、印象に残った話は、「エアコンは、消費地で生産し、その近くでコンプレッサーを作るのが基本方針(最寄化生産)」です。中国の最大の生産拠点は、蘇州ですが、最寄化生産の思想に従って、西安でコンプレッサーを生産するようになったようです。西安は、上海等の沿岸部より人件費は35%程度低いが、中国を安くものを作る拠点という考えではなく、早くから(1990年代)市場として中国を捉えていたことに感心しました。今では当たり前の考えですが、中国は安くものを作る所と一般に考えられていた時代に、会社の基本方針がはっきりしており、中小企業でも将来を見据えて、方針、ビジョンをしっかりと持つことは大切と思いました。次に感心したことは、AGV(部品を運ぶために工場内を走る無人搬送台車)にみられるように、「自分たちの機械は、自分たちで作る。」という考え方です。金で解決するのではなく、知恵で解決するということです。当社でも自社製品を作る機械(汎用機械でない)を自社で設計・製造できるようになることを目標の一つに挙げているので、共感できました。3点目は、「企業は人作り、組織作り」と言われていたことです。よく言われることですが、仕組みとして実践することは難しいです。レクリエーションのほか、品質大会、安全大会などのイベントを定期的で開催し、お金(給与)だけではなく、仕事に遊び心を取り入れて、会社の方針を皆に上手く伝え、人作り・組織作りを実践している点は、当社のような中小企業でも勉強になりました。

② 兄弟機機(西安)有限公司

ミシン製造というコア技術が、時代の変化に対応して、100年の間にプリンター事業、工作機械事業などの新たな分野の仕事を生み出していることに驚いた。常に挑戦し続ける会社の姿勢は、当社でも社是にあり、「今、会社で何をすべきか？」を考えさせられました。また、人材育成にもかなり力をいれており、誰か生産しても同じものが作れるように「見える化」をして新人教育を行っていた。当社にあてはめると、少し新人教育の仕組みはできてきたが、今後、中堅社員や管理職の人材育成をどのようにしていったらよいか(人材育成の仕組み作り)ということを考えさせられました。

③ 日通国際物流(西安)有限公司

中国の物流事情や輸出業務の勉強になりました。

④ 西安外国語大学

学生さんとの交流の場で、訪中団員1名と学生さん1名がセットで、まずは、教室内でコミュニケーションを取り、その後、学内(校舎内外)を案内してもらい、最後に学食で昼食、記念撮影という段取りでした。私を担当してくれたのは、羅家威(ら・かい)君というしっかりした意見を持っていて、非常に明るい好青年でした。大半の訪中団員が女学生対応だったのに対し、ラッキー(?)でした。かい君の出身は珠海(香港の近郊)で、高校は海南島(ベトナムの横の島)の学校を卒業、大学は西安という中国各地を転々としており、既に自立している学生でした。日本に一度も来たことがないのに、日本語を巧み

に操り、驚きました。私は日本の学生とも接する機会がたまにあります、日本の学生に比べて、かい君は非常にバイタリティーがあり、中国の成長性や勢いを感じさせる学生でした。

⑤ 馬普軟件(西安)有限公司

我々と同じ中小企業で、京都と西安に会社があり、社長の安倍さんは大半を西安で仕事をしています。業務内容は、ソフト開発が主体です。西安で会社を興した理由は、「(i)行政やインフラ等を考慮すると、西安が省都である。(ii)上海、北京に次いで、西安は大学が多く、優秀な人材が確保できる。(iii)西安への企業誘致説明会であった人との縁。」の3点でした。これだけの理由で、海外経験のない会社が、西安に会社を興すことは、普通は難しいと思いますが、即断即決して、起業11年目になります。もちろんこの10年間で大変な苦労をされたようですが、経営者としての信念や判断は見習うべきものがあると思いました。安倍社長は、えべっさん(恵比寿神)のような顔をされた方で、非常に面倒見がよく、親切でした。夜の街も紹介・案内して頂き、本当に人柄が顔に表れており、この人柄だから成功するのかなと正直思いました。

⑥ 観光(掛軸・宝石の購入斡旋付)

観光は一般的なものでしたが、1つだけ驚く点がありました。それは、国宝級の寺に行ったときに、その僧侶(管長)が書いたという掛軸(「風林火山」、「一期一会」などの書道)を数万円から数十万円で販売していたことです。また、地質鉱産研究所を訪問した時も、はじめは良質の翡翠(ひすい)の見分け方やその他の鉱石の説明を研究員が説明を行っていたのですが、いつの間にか、この研究員が宝石商に変貌し、私たちに宝石の販売を行い出したことです。日本の常識だと、地位の高い僧侶や国家公務員が商売をすることなんて考えられなく、ましてこのような方法で商売を行うのは驚愕でした。中国の商売魂を見せられた気がします。僧侶、公務員でこのレベルですから、日本企業が地元のローカル企業(民間人)と商売をするのは非常に難しいということを感じました。

⑦ 夜の街の飲み屋

初日のみ、現地の日本語が話せない飲み屋に行きましたが、残りの日は、安倍さんが紹介してくれた飲み屋に行きました。特に日本の飲み屋と異なることはありませんでしたが、ここでもやはり中国を感じました。初日の飲み屋は、日本語が全く通じなく、英語もほとんど通じないにもかかわらず、ホステスがお金を使わすように誘導し、商売っ気が日本に比べてかなりあったということです。安倍さんの紹介してくれた飲み屋は、日本語が話せて、日本人のみをお客さんとして相手しているので言うまでもありません。ママに誘われるままに3日連続同じ店に行ってしまいました。西安の夜の街の商売の上手さを感じました。余談ですが、毎晩飲み歩く予定ではなかったのですが、お金がなくなり、金津さんに借りてしまうというエピソードがありました。

以上が西安訪問の感想です。今回の訪中団で良かったことは、6日間同じ仲間と一緒に皆さんと非常に親しくなれたことです。私の場合、大半の方が初対面か顔見知り程度の方だったので、特に有意義でした。来年以降も日程があれば、ぜひ参加したいと思います。工場視察をさせて頂いた企業の皆様、安倍社長、学生の皆様、ツアーガイドの魏さん、訪中団の皆様、本当にありがとうございます。

3 社企業訪問しまして感じたことは中国のかなり内陸に入ったここ西安でも日系企業は地道に日本の経営で社員を教育し上手くやる気を出す工夫をされ仕事を進められていることでした。これまで中国各地に多くの日系企業が一旦は進出した後に苦戦、或いは撤退しているなかで数少ない勝ち組として存在感を発揮しているのは資本のある親会社に依存した経営だけでは成り立たないところがありました。

その秘訣の一つが徹底した品質管理でした。全ての製造工程がきめ細かく管理され、どこでどんな失敗や問題があるか、また業績に貢献した部署や社員などを至るころのボードに明示され社員全員がどう働いているかが分かる、所謂見える化が日本と同じように実施されている。それによる工程見直し、作業改善や安全性向上などが進んでいると感じました。また自動化すべき所は実施し、不良率も低下させ、モノによっては最終出荷に際して全品検査で品質を限りなく高める努力をされています。

ただ驚いたのはコストに関しての問いに「中国での製造は輸送費を含むと日本と比べ1割しか下回っていません」との答えでした。これだけ社員を教育し、総社員数百人に対して日本人社員は数人と極限まで減らして工賃も地元企業と同一くらいにして、利益がそれほど出なくなっている。しかしリーマンショックや賃金コストの上昇やライバル企業との競争激化売上の停滞などで経営環境は次第に厳しさを増しているようです。それでも社員のモチベーションを維持し品質を安定させ、企業努力も続けているがその成果が出にくいのは確かです。経営努力にも拘わらず厳しい環境に遭遇し苦勞されている姿がそこには見えました。

5, 6年前にやはり日中研究会で行った時の中国と今回の中国が様変わりしている感じを持ちました。その時はまだ中国が2桁成長を続けている時期だったので何事もイケイケムードでお金も仕事もうまく回転していたようでした。日系企業にしても設備投資はドンドンする新たな工場は建設する、社員はずっと募集し続けあつという間に何倍も売上も上がり利益もついてくる、中国経済は我が世の春を満喫していました。それが現在は人の多さは変わりませんが以前の高度成長からは遠ざかってしまった感があります。

中国は嘗て日本も経験した中所得国の罠、つまり一人当たりGDPが年間1万ドルを超えられるかの所で先進国に入っていけるかどうかの境目を前にして経済が停滞してその壁を越えられず足踏みしているようです。共産主義国家でありながら資本主義経済を取り入れ1980年代から驚異的な成長をしてきましたがここに至りて停滞する世界経済の流れに自国だけ例外になることは出来なかった。嘗ては世界の工場として中国製品を圧倒的なパワーで市場を席卷しましたが賃金高騰により低コストでの生産が不可能になり競争力を急激に落としました。

世間では中国ではバブル崩壊危機や大手銀行の不良債権など色んな問題が取り沙汰されていますが日本経済や企業にとっては結構依存する部分が大きく経済が失速してもらう訳にはいきません。当面強い中央政府のかじ取りで何とか維持してほしいのが我々企業人の今の気持ちです。

2014年にAPECが中国で開催されたときに習近平さんが「一帯一路構想」として自国の西側、つまり中央アジアやインド、ペルシャへ近代以前のごとく物流などを回帰させ所謂シルクロードの復活を今後目指していくと言及されていました。今回そのシルクロードの起点である西安を訪問し思ったのは中央アジアやヨーロッパなど西へ進む旅の遠いこともさることながらそれよりも中国政府が経済や民族などの諸問題を克服し達成することの方が遙かに遠いのではないかということでした。

2016.11.7

訪中記

税理士法人未来財務

田中 隆昭

私は海外へ行くと、いつも日本と違うところを探し、そのことを体感するようにします。

しかし、西安へ行き一番感じたことは、異国にきたという感じが殆どしませんでした。日本における、都市部と田舎町ぐらいの差はあったでしょう。でも、それ以外で大きな違いを感じる事がなかったです。地下鉄にも乗ったが、綺麗であることに加え、意外に社内は静かでした。みんなホームに適当にならんで、社内に乗り込んでいました。マナーも大阪基準で考えれば及第点です。最近、ベトナムなどの新興国に行くことが多く、何重にもなるバイクの行進をよく見ます。でも西安は、完全な車社会ですね。上海など沿岸部に比べると賃金はやや低いものの、生活に困るというレベルではないでしょう。中国は、上海などの沿岸部が、劇的な経済発展の象徴のように取り上げられますが、内陸地域まで裾野広く経済発展してきた証拠なのでしょう。

西安の人口は、現在 900 万人台、2020 年には 1,000 万人を超えると言われてます。町の雰囲気を出すと、気のせいかもしれませんが、高齢者の方がよく目に着きました。一方、若者が西安以外の沿岸都市やアメリカや日本などの外国への憧れを持つ者も多く、人口構造は、若者が減り高齢者が増えていくという、日本と同じことが起こっていることが目視できたように思います。大学の多い都市であることから、若年層は多くいるものの、労働力の担い手となる中間年齢層は少ないのかもしれませんが。

西安は、観光都市としては高いレベルの都市です。加えて、車や鉄道の幹線交通網が張り巡らされ、地理的にはとても優位な地域です。それは、歴史上数多くの都があったことなどでも証明できます。しかしながら、経済というひとつの観点に限って考えれば、その圧倒的な優位性といえることが、生かされていなく感じました。

古都の環境維持のために、あえてそうしているのでしょうか。偏った見方かもしれませんが、単なる観光都市では、この 1,000 万人近い人口を養っていけないように個人的には感じました。日本社会が高齢化と人口減で経済活力が衰えつつある。今回の訪中で、そのことを西安に投影してきたから、日本との違いを感じなかったのかもしれませんが。

田中

2016 西安 訪中団

人口の多くは漢民族だがイスラム系もいるため街の雰囲気が東部中国とは若干違うように感じる。約 840 万人の人口に対し、日本人が駐在・留学生合わせても 200 人程度しかいない街。日本人観光客も減少傾向にあり、ますます日本人が少なくなるような状況のよう。

企業視察

・今ある日系企業はなぜ西安に進出したのか？

20 年以上前は部品調達において西安は品質に優位であったなどの理由のよう。現在でも人件費において沿岸部よりも優位で、中東・アフリカ・欧州に対しても距離的アドバンテージがある。離職率も低く人材が育ちやすい。

・今後はどう？

中国本土はもちろん、中東・アフリカ・欧州むけの進出ならば有効なのかもしれないが、中国全土でいえることだが、沿岸部より優位な面があっても日本むけを意識しての進出は無いように思う。

・では、今から西安で日本企業（日本人）が商売をやっていくには？

日本人が少ないせいもあり、日本語の看板をほとんど見なかった。当然、飲食店も在るのだろうが、見つけることができなかった。飲食やサービス業など製造ではない業種が有効なのではないかと思う。

文化交流

・西安外国語大学訪問

こちらからの要望にもかかわらず、想定以上の対応に大変感動しました。1 人につき 1 人の学生が付き、校内案内・学食での昼食、普通では経験できない貴重な経験ができ、学生たちとも十分コミュニケーションが取れた訪問でした。今後もこのような文化交流は続けていく事はいいと思う。

(株)豊田製作所 豊田浩二

訪中団(西安)に参加して

株式会社ナガラ 三原敏彰

何年振りでしょうか、日中経済交流研究会の訪中団に参加をさせていただいたのは・・・。
今年の初めに豊田さん、落合会長から日中経済交流研究会の幹事の一人として加わるよう
にお誘いを受けたのがきっかけになりました。

正直、最初は6日間も中国に滞在することの抵抗があり、参加を躊躇しておりましたが、
“案ずるより産むが易し”のことわざがあるように、参加して良かったとつくづく感じて
おります。 というのは・・・

1日目。関西空港から北京行の飛行機への搭乗が1時間以上遅れた上に、機内の狭いシ
ートに座らされたままでまた30分以上待たされ、やっと出発。北京空港ではトランジ
ット6時間待ちの予定でしたが、日本出発が1時間半遅れだったので4時間くらいの待ち
時間でした。その間イミグレーションの通過と国内線の乗り継ぎ手続きなどで結構時間
を費やし、また、みんなで、なぜか北京空港で日本の有名ラーメン店でラーメンの昼食を
食べたりしているとさほど退屈をすることもなく、国内線に乗り込み、西安を目指しまし
た。

西安のホテルに着いたのがもう夜の10時近くで、日本から西安に来るのに丸一日を費
やしました。これはさすがに、自分の年齢をつくづく感じさせられました。

2日目は、企業訪問です。まず、ダイキン工業の西安工場・西安大金慶安機有限公司
様を訪問しました。中国のダイキン工業グループ会社は、20年前の1996年（平成
8年）に進出され現在中国でも大企業になっています。

訪問した西安の工場は同じく1996年に設立され、現在従業員800名の工場で、や
はり日本の優良企業であるので、工場内の生産体制は、自動化が進み、5S（整理・整頓・
清掃・清潔・しつけ）が徹底されていて、とても中国の工場と思えないくらいです。

次に訪問をしたのが、ブラザー工業の西安工場「兄弟機機西安有限公司」様。
あのミシンのメーカーさんです。ここは、2001年に設立され、工業用のあらゆるミシンを
製造されておられます。従業員は900名近くの大きな工場です。やはりこの工場も、日本
式の、整理・整頓・清掃・清潔・躰、環境にやさしく、省エネが徹底された素晴らしい工
場です。

いずれの会社も、日本の大手企業ですので、やはり日本式のきれいな、見事まで管理
された工場で、中国へ行くのだから中国の中国らしい3K（キツイ・汚い・危険）の工場
を期待？していくと何か物足りないというか、いい意味でがっかりするところがありまし
た。

3日目は、西安外国語大学の日本語学科の学生さんとの交流会です。これは一番期待
をしていた訪問先です！！ 応対をさせていただいたのはすべてが日本語学科の4年生の女
子学生さんで、我々1人に1人ずつ学生さんが担当として付いていただき、みなさんはその

方と片言以上の語学力で自己紹介や簡単な会話をしたのち、教室や研究室、学生寮(外からですが)など大学キャンパス内を案内して頂きました。そして、大学食堂(学食)ではほかの学生さんに混じって、学生さんがいつも食べているメニュー(ぼくは餃子をごちそうになりました)の昼食を2人で食べながら、日本の事、日本の会社の事、日本の芸能の事などの質問を受け、僕の知る限りの日本の情報、状況等を教えたり、また中国の学生さんの日常生活のことなどを聞いたりして、楽しいランチタイムを過ごさせていただきました。ちょっとしたデート気分です。

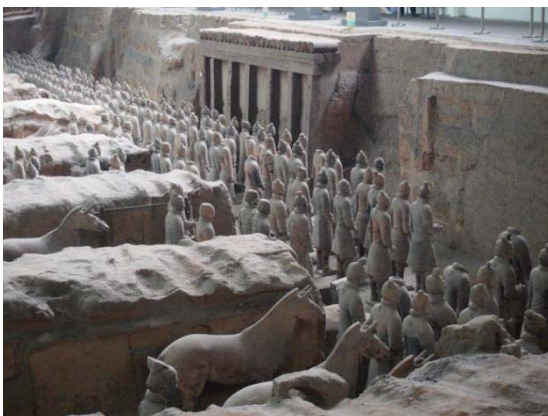
彼女[魏 海迪(ギ カイテキ)さん]は本当にまじめで、勉強熱心で、大学を卒業したら大学院に行き、その後、名古屋大学に留学し日系企業に就職をしたいと明確に将来設計を立てておられました。だから、今を頑張れるんだと思いました。



4日目は観光です。やはり目玉は兵馬俑と城壁です。

秦の始皇帝のお墓の埴輪、兵馬俑は、1974年に臨潼県西楊村の住民6人が村の南に井戸を掘ろうとして土を掘っていた際に、住民のひとり楊志発氏によって兵馬俑の最初の破片が発見されたとのこと。指揮官・騎兵・歩兵と異なる階級や役割を反映させた何千体もの兵馬俑。その規模の大きさには驚かされるとともに、今、目の前には2000年以上も前の遺跡があるという感動は西安まで来た甲斐があったというものです。

昼食は兵馬俑の博物館の近くのレストランでしたが、そこは、発見者の“楊志発さん”が営まれているレストランで、お客様サービスで握手をしたり一緒に写真を撮ったりしてくれました。



西安の古城壁は、完全に保存されている世界最大の古代城壁として、また世界で最も整った古代の軍事砦なんです。現在、西安にある城壁は、唐の長安城度重なる戦争でなくなり、今の城壁は唐の時の城壁を基礎に明の時代にかけて、レンガを積み重ねて築かれたも

のです。

城壁は、周囲約 14 km、高さ 12m、底の幅 18mで、厚さが高さより大きい堅固な城壁です。南門、北門、西門、和平門、文昌門などから城壁に上ることができます。その城壁の上では、レンタルの自転車を借りることが出来、700 年以上も前に作られた壁の上を自転車で走れるなんて、もう興奮しまくりで、思わず自転車をブッ飛ばしてしまいました。



唐の時代、西安は長安と呼ばれ、その時中国の茶、陶磁器、文化、科学はシルクロードより世界へ伝播されていました。当時は現在の西安城壁のさらに外側に、もうひとつの城壁（唐の時代の城壁）があり、その城壁にシルクロードの東の起点に西城門がの門があったようで、その場所にキャラバン隊の群像が設けられ、“シルクロード起点”として観光の名所になっていました。

以上、過ぎてしまえばたった 6 日間の訪中でしたが、その間、企業訪問で日本企業が中国で頑張っておられることが学べて、中国の女子学生さんとの交流でその勉学に、将来に真摯に向き合っておられる姿を見ることが出来て、そして 2000 年以上前の兵馬俑や城壁などの遺跡に本当に目にし、手に触れることが出来て、中国の偉大な歴史と大きさを改めて実感させるなど、中身の濃い思いで深い旅行になりました。

だから・・・ 本当に参加してよかったです。

お世話頂きました方々には紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

2016年訪中団感想文

個人的には渡航八回目にして二度目の内陸の土地、西安への訪問。

前日の予定故、遅れての参加且つ早めの帰国という道中は皆さんと異なる行程であった。

往路は時間とお金の関係で、単身での日付を超えての長時間の乗り継ぎとなったが、終わってしまえば良い思い出になった。

地理不案内のタクシー運転手と渋滞によって初日の西安大金さんへ、かなり遅れて参加となった。

さて、西安と言う町、「内陸=何となく田舎」と想像していたのだが、現実には予想に反して大都市。空港から市内の宿泊ホテルまでの1時間あまりのタクシーの経路には、田舎風景は殆ど無く幅の広い車道と建物がひたすら続く大きな町だった。

同じように大きな町である深圳や上海とはやや異なって感じたのは、町中に緑が多い事ではないだろうか。城壁の内側のエリアは、規制がされているとの事だったので、緑が多い事は納得できるのだが、城壁の外もそれなりに緑が多い。町ゆく人たちの表情もクラクションの鳴る回数も心なしか沿岸部とは異なる気がした。

初日の西安大金さんもブラザーさんも言わずと知れた大企業で沢山の現地の方々が働いている。

大金さんは、遅れての参加だったのであまり分らないが、日本式を押し付けるのではなく、現地の方々の自発能動的な姿勢を引き出して上手に運営されていると感じた。これは少数の日本人相手でもなかなか難しいと思う。報酬とやりがいを上手くバランスさせてこそなしえる事で、それを少数でこなしておられるには感銘する。

二日目の西安外国語大学への訪問、これは多くの団員が印象に残る事だったと思う。

ガイドさんの母校である事と関係しているのか、マンツーマンでの交流とは正直驚いた。

交流相手の学生さんが、ほぼ女性ばかりだったのにも驚いた。

バスを降りる前に団長から「あの～、キャバクラではありませんからね！あまりハメを外さないように！」との注意が印象に残る。

私のお相手をしてくださった王瑩（ワン・ユン）さん、同じ省の南部のタバコ農家のご出身で、二木氏のレポートにもある様に勉強熱心で親切で、一生懸命日本語を使って話してくれる姿には同じ年頃の子供を持つ身として複雑な気持ちだった。

学食でランチをいただいたのだが、その種類の多さに驚いた。広い国土のいろんな地方から集まる学生さんに対応する為、いろんな地方の食文化が必要なのか？王さんレコメンドの辛い日本でいう「うどん」は非常にうまかった！

些細な事であるが気になった事が一つ。我々の事を「中日経済交流研究会」と彼らは呼ぶ。

固有名詞を勝手に変えても「中」が先にこないとプライドが許さないのか？一対一ではフレンドリーなのに、組織体組織だとうなるものかと考えてしまう。

史跡巡りで感じた事だが、あの兵馬俑。聞きしに勝る迫力でこんな物を何百年も前に作ってしまう方々を子孫にもつ中国の方と、世界をまたにかけてビジネスで戦わなければならないとは厳しい時代になったと感じた。想像をはるかに超える物量をコントロールする手法やそのバイタリティーには感服する。日本もいつまでも「技術大国」等と言っているのは、早晚追い越されるかもしれない。

最後に、豊田団長以下、団員の結束の証を添付して終わりとする。(笑)



2016年訪中団報告

日本度器株式会社 藤田 眞弘

今年の訪中団は訪問先が西安であることと、仕事のやりくりが出来たこともあって3年ぶりに参加しました。

西安は私が生まれて初めて中国に行ってみようと思わせてくれた場所で、兵馬俑坑を見てみたいという動機で、確か1998年に行ったと思います。

そのときからの変化を見たいという思いで参加したのですが、変わったところと変わらないところ、色々見ることが出来て良かったです。

当たり前的事として、兵馬俑坑や華清池などの観光地は大きな変化は見られませんでした。観光客が多くなったことは変化の一つかも知れません。

やはり一番の変化は西安が都会になっていたこと。城壁内は建物の規制があるとのことで高層マンションなどは見られませんでした。城壁の外はマンション群が広がり人口800万人以上の大都市になってしまっていました。

と、ここまで書いて「お前は観光に行ったのか！」というお叱りの声が聞こえてきそうなのですが、それも訪中団の楽しみの一つという事でご勘弁願いたいと思います。

とは言うものの、日中経済交流研究会の訪中団ですから、そういった面での感想も一言。視察した日本企業が西安に進出した理由は合弁相手先の会社が西安にあった事が最大の理由のようでしたから、中小製造業が進出するには不向きな場所かも知れませんが、中国国内で販売するという目的であれば大学が多く集まる文教地区とも言える西安は選択肢の一つかも知れません。

それと、個人的な感想にはなりますが、福建省・浙江省などの地域出身者に比べると西安の人は実直な雰囲気があり、友人になるなら大連とともに好まし

い地域ではないかと思いました。

その理由

①西安の地下鉄に乗った際、若い女性が席を譲ってくれました。（日本では譲って貰った事が無い62歳の私です）

②西安外国語大学の学生との交流会で私のパートナーを務めてくれた女性がすごく親切で感じの良い素直な女性でした。

と、全く個人的感想ですが、まあこんなのも有りという風に思って貰えば、訪中団の参加者も増えるのではと思う次第です。

この度は訪中国に参加させていただき本当にありがとうございました。
私にとって参考になった言葉をまとめました。



西安大金慶安圧縮機有限公司（ダイキン工業）より

「進出して3年経ったら日本人はどんどん減らすくらいの覚悟が必要です。そうでないと意味がないですわ。現在はトップ3~4人だけが日本人で、管理職からすべて中国人です。」

中小企業のような社風。人間味のある上司。大きな会社なのに家族のような社内関係。

「うちの中国人幹部はよーできる。」と何度もほめる。部下を信頼しているのが伝わってくる。

「社内では中国人社員が主体となって慰労会とかゲームを活発にやっていますわ。」と今までの中国進出企業と労働者の関係イメージを大きく覆された。

「中国にコストを求めるのはご存知の通りもう古い。中国はもう世界の工場ではない。中国の生産力・経済・消費・地理に着目をせなあきませんよ。」

兄弟機械西安有限公司（ブラザー工業）より

生産する品番を決めて徹底したライン工程での組み立て。「誰でも早く・ミスなくできるように細かい工夫をたくさんしています。使用材料・部品の検品も完璧にしています。だから、日本製より中国製の方が品質がいいんですよ。」この品質ならどこの国でも高い値で売れるのは納得できる。この拠点より中国国内のみならず世界の裁縫工場や金属加工工場に出荷されている。ブラザー工業の歴史を見ると、ミシン・機械だけでなく過去にはオートバイ・洗濯機など様々な紆余曲折があった。やはり、多くのチャレンジ精神によって現在までの会社の存続があるのだと感じた。



西安外国語大学より

「日本の企業は、中国人に対してどのように思っていますか？」

「男性と女性の待遇は同じですか？チャンスは平等ですか？」

「海外展開や国際的な仕事の予定はありますか？そのような会社は日本に多いですか？」

「日本で働いている中国人たちは幸せそうですか？」

今回の視察で、一番突き刺さるような質問が多かった。

「レベルが低ければ、チャンスをつかめない。今、勉強して自分のレベルを上げている。そして自分の目の前にチャンスが来たときに絶対につかみたい。」

さて我々は彼女たちに比べてどのような努力をしているだろうか。このような能力のある次の世代をがっかりさせるような会社（日本）であってはならない。

馬普軟件（西安）有限公司（マップエンジニアリング）より

「中国人社員とうまくやるにはその家族ごと付き合いをする。家族ごと保証してあげると言ってやる。そうすれば母親や嫁が一所懸命会社に尽くすように見張ってくれる。日本のようにただ『早く覚えろ・毎日頑張れ・できるだけ儲けろ』ではなく、目標を明確にしてやらなければならない。そしてそれ以上の結果を出したら、何でも好きにさせてあげることです。」これは日本にいる自社の中国人社員に対しても全く同じで、自分自身もまだ出来ていないと感じた。